中学校２年　国語　調査結果の考察

（１）設定通過率との比較　　※表中の数値は設問数

分類／設定通過率の	観点別				計
	話すこと･聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項	
＋10％ より高い	2	0	2	3	7
±10％ の範囲内	1	1	5	4	１１
－10％ より低い	0	0	0	2	2
計	3	1	7	9	２０

（２）考察

①　全体について

ア　全設問中７問が設定通過率より「＋10%より高い」範囲にあり、おおむね良好である。

イ　「言語事項」については、設問内容により通過率にばらつきがあり、課題がある。

②　成果

ア　「聞くこと」では、話し手の意図を考えながら、話の内容を正確に聞き取ることが良好である。

イ　「言語事項」では、漢字の読み、文脈中における語句の意味理解が良好である。

③　課題

ア　「読むこと」では、文章の展開に即して内容を捉えることが十分ではない。

イ　「言語事項」では、熟語の意味や用法の理解や，文節の文中における成文についての理解が十分ではない。

（３）今後の指導

ア　「読むこと」では、文章の展開、登場人物の言動の意味、文脈中での語句の用いられ方や描写の効果など、読むことの技能を意識して高めていく学習を展開したい。

・登場人物の言動の意味については、その言動の前後の文脈を捉え、登場人物の相関関係や話の展開、作品全体にどのような影響を与えているかという視点から考えるなど、文章全体を俯瞰して読む活動を取り入れる。

・文章の構成や展開、表現の仕方について自分の考えをまとめ、感想を交流するなどの言語活動を意図的に設定する。その際、自分の考えの根拠となる場面や叙述を明らかにして吟味し合うなど、読みの精度を高める指導を工夫する。

16) 飛びあがりたい～書き込んだ　とありますが、この動作の奥にある「夏代」の気持ちが分かる一文を本文中から探し、はじめの四字を抜き書きしなさい。

イ　「言語事項」の語句の指導においては、語句そのものの意味を理解させるだけでなく、日常生活を想定した多様な言語活動や文脈の中での意味を捉えさせるよう工夫したい。

・熟語の学習については、接頭語や接尾語が付いたもの、対義の組み立てのもの、数字を使ったものなどテーマを決めて熟語を集めるなど、言葉への興味・関心を高めるような指導の工夫を図る。

・文節の文中における成文については、第１学年で学習する内容であるが、第２学年で単語について学習する際に再度取り上げるなど、繰り返し学習することで着実な定着を図る。また、教材文の読解指導の中で必要に応じて取り扱うなど、言語感覚を磨き語彙を豊かにすることの大切さを実感できるよう指導する。

8) 次の会話文を読み、会話の内容に合うように□に当てはまる漢字一字を書き入れ、熟語を完成させなさい。

恵「そうかしら。私にとっては日常□飯事よ。」

11) 次のア～エの――線の文節の中で、文の成分が異なるものを一つ選んで記号を書きなさい。

ア　夢、それはいつも私たちが心の中にもち続けていたいものだ。

“問いを発する子ども”の基盤作りに資する問題